

令和 6 年度第 1 回多職種連携交流会（多職種連携研修）報告書

日 時：令和 6 年 5 月 17 日（金）14：00～16：00

場 所：印西市役所大会議室

テーマ：チームで対応する認知症支援

内 容：事例を用いたグループワーク

（職域別グループワーク後に多職種グループワーク）

参加者：70 名（15 職種）

担 当：太田・澤根



交流会風景

- ・顔の見える関係づくりのため気軽に参加していただくことを目的とし、昨年度から「交流会」という名称で開催。
- ・昨年度、日中開催で過去最多となる 10 事業所 53 名の参加であったため、今年度も日中開催とし、第 1 回は 15 事業所 70 名の参加があった。
（初参加：消防・小規模多機能居宅介護・有料老人ホーム・認知症疾患医療センター（講師として参加経験あり））
- ・グループワークでは事例を用いた意見交換を行った。職種の役割や課題など、具体的にイメージでき、意見交換しやすくなったと考えられる。
- ・前半に同じ職域の方たちのグループワークを行うことで、他事業所の役割の共通認識や他事業所が配慮している点など理解したうえで、多職種のグループに分かれて話し合うことができたため、多職種のグループ間で職種の役割の内容について大きな差が出ることなく、共通認識した内容に沿っているため、不安なく話ができるようになったと考えられる。
- ・時間に余裕があれば、事業所間で自由に話していただいた。「ちょっとした疑問も聞くことができた」「同職種でも電話でのやりとりしかしたことがなく、実際に会ってゆっくり話すことができてよかった」などの声もあった。
- ・GoogleForms を活用してアンケートの協力を促したが、14 名ほどしか回収できなかった。（紙媒体 6 名）紙媒体では、毎回 90%以上の回収率で意見を聴取できていたため、今後は、紙媒体でアンケートを回収していく。

【検討事項】

同職種でも別の視点での意見や困っていること、大事にしていることなど共通認識することで、ルーティン化している対応にプラスの意識や対応が加わり、地域の支援の質の向上にも繋がると考えられる。うまくいった対応はもちろん、うまくいかなかった対応も気兼ねなく共有でき、知恵を出し合うことができる関係づくりが重要である。すでに同職種で連絡会等を定期開催している職種もあるが、会議内容が事務的なものであったり、集まる機会の確保が難しい職種もある。今後は、多職種連携の大前提となる同職種の連携にも意識しながら研修内容を検討していく。

【アンケート結果（重要なポイント・感想など）】

- * 今まで交流のない職種の方の顔が見えるようになった。同職種間での別視点からの意見を
知ることができた。初参加だが、今後も参加したい。（薬局）
- * 他職種の患者様への関わり方や苦勞していること、薬局にどのような介入をしてほしいか
がわかった。（薬局）
- * 多職種連携の重要性を学んだ。今後も継続して消防からも出席を促したい。（消防）
- * 情報収集は、駐在勤務の警察官が長けていることがわかった。情報が聞き出せないケース
は救急キットが有効なので医療機関など内容の更新が重要。（包括）
- * 意外とどこの事業所も相談しやすいことがわかった。個別地域ケア会議など、困ったとき
に相談できると思った。楽しかった。（包括）
- * さまざまな関係機関が連携することで、ケース介入のタイミングを図ることができたり、
認知症の進行レベルの把握に有効であることがわかった。（包括）
- * 同じ事例でも職種が違くと捉え方や対応の視点が違うことがわかった。多職種連携の重要
性を認識した。（デイ）
- * 年に3回くらいは実施してください！とても参考になりました。（デイ）
- * 一人一人が身近な課題として取り組んでいる、どこの事業所も頑張っていると思った。と
とてもためになり、活力になった。（デイ）
- * 消防隊の方が、救急キットがあると搬送が早く病院が見つけやすいと聞いたので、今後、
救急キットの設置状況を確認して、更新していきたい。（ケアマネ）
- * とても話しやすく、内容的にも参考になった。最初に職域別、次に多職種と両方行ったこ
とがよかった。（ケアマネ）
- * 横の繋がりが無い職種があった。もっとお互いに情報共有できればよいと思った。（訪問
看護）
- * 外来でしか知らなかった方の日常のサポートをする方の話を聴くことができて、今後の参
考になった。（歯科研修医）
- * 包括の役割を再認識できた。救急キットについて知らなかったためその存在と普及させる
必要性を理解できた。（認知症疾患医療センター）
- * 入院前の状況確認、退院後の相談はケアマネにしているが、実際に患者をケアしている
のはヘルパーやデイのスタッフであることを再認識した。ヘルパーやデイのスタッフから
情報や意見を聞いて集約するケアマネさんも大変な仕事だと思った。（医療連携室）
- * ケアマネ以外の職種の方から話を聴くことができる貴重な機会だった。（医療連携室）
- * 包括がボランティア団体など紹介や同行してくださることを初めて知った。横の繋がりは
とても大事。（訪問看護）